



# Yochu-JUMP

第8号



与那原中学校 (Y) 授業力 (J) アップ (Up) 元気 (Moxie) プロジェクト (P) R6.1.18発行

あけましておめでとうございます。今年も与那原中学校の先生方の素晴らしい実践を週に1回（目標で）共有していきたいと思っております。授業参観のご協力をよろしくお願いいたします！

## あいづちを取り入れて自然な英会話の力を育成

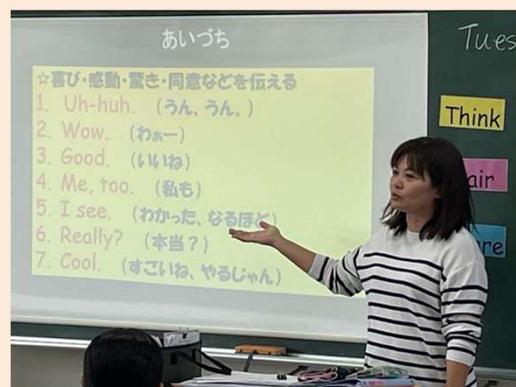
参観させていただいた麻奈美先生の授業では「どこに行きたいですか?」「その理由は何ですか?」という英文についての対話でしたがすごいと感じたのは「あいづち」の表現についても学んで活用していることでした。ペアでの対話においても「Uh-huh. (うん、うん)」「Wow. (わあー)」といったあいづちを入れることで、ただの英文の読み合いではなく、ちゃんとした会話になっています。日常的な対話になるように英語科全体で取り組んでいるようで、2・3年生になるとさらにバリエーションを増やし、活用するタイミングまで意識させていくとのことでした。

また、このような帯活動においてもステップを示しており、

①Think → ②Pair → ③Shair の3段階でスムーズに活動しています。③Shairの場面では「Volunteer? (ボランティア)」という呼びかけで手を挙げた積極的なペアの発表を「あいづち」も含めたモデル会話としてみんなでシェアすることができています。

「あいづち」は単なる対話の技術だけではなく、自己肯定感を高めるという側面でも必要なものであると感じます。普段の学校生活や日常生活におけるコミュニケーションにおいても大切にしていきたいですね。

## 英語科 比嘉 麻奈美 先生



シンプルなあいづちでもバリエーションがあります

## タブレットカメラを活用したマジックで興味を高める

健太郎先生の授業では、光の学習で学んだ屈折や全反射の原理を生かしたマジックを紹介しています。このマジックの巧みなところはタブレットカメラの様子を電子黒板に映して見せていることです。見る角度によっては、マークが消えるという現象が確認できないのですが、カメラを使うことで視点を固定しマジックを成功させています。タネ明かし(解説)の場面では、前時までに学んだ知識を使いながら、現象をわかりやすく図で示しています。どうしてこのような現象が起きるのかという「問い」を持たせることで、原理についてしっかり理解しようとする意欲を高めることができています。

また「簡単な道具でできるマジックなので家族にも紹介してね」と健太郎先生が授業の中で生徒に紹介していたように、身の回りの現象を科学的に説明することができるようになるということが、理科の学びの楽しさです。健太郎先生の授業を通して、理科好きな生徒がどんどん増えていくことが期待できそうです！

## 理科 知花 健太郎 先生



光の全反射を利用したマジックに生徒は興味津々です

## フチャッと DTK 道徳の授業で使えるような話題(歌・言葉・本など)を紹介します！



「世界は誰かの仕事でできている」

／ジョージアCMより

2014～2022年まで、缶コーヒーのCMで使われていたキーメッセージです。幼い子どもが父親に向かって唐突に質問した「世界は誰がつくっているの?」という言葉に対し、様々な働く人達(1人8役を務める山田孝之さん)が次々と答える…というCMを覚えている方も多いと思います。勤労の尊さ、自らの仕事に誇りを持つことのカッコよさをシンプルな言葉で表現しています。YouTubeでCMを紹介するのも良いですね。